



No.730

疾風迅雷！



春の嵐と人馬一体の共演



特集

# 轡馬大会の今昔

人も馬も泥にまみれながら、  
障害を乗り越え、  
ひたすらにその栄冠を目指す。







佐藤忠さん(2の2区)

## 人と人のつながりや協力があったから、 馬文化を受け継いでいくことができた。

**平** 成28年の第66回東北北  
馬競技大会は、北海道・

東北各地から涌谷へ力自慢の  
鞍馬と馬主が集結。春の風の  
中、39頭が階級別に分かれ、  
人馬一体となり、競い合いま  
した。

涌谷の春のメインイベン  
トは、昭和25年に第1回仙北11  
郡鞍馬競技大会としてスター  
ト。昭和42年第18回大会で東  
北鞍馬競技大会に名称を変更  
し、現在の第66回大会に至り  
ます。

「昔は、農家や馬車業を営  
んだりと、馬を飼っている家  
が多かった。だから、100  
頭近く涌谷の鞍馬大会に集まっ  
てきていた。時代が変わって  
今は、馬を飼う人が少なくなっ  
てきている。ただ、毎年PR  
しに青森や岩手を回っている  
と『必ず涌谷に行くから出場  
させてくれ』と言ってくる。  
また、栗原の岩淵産業という  
馬主は、父親が亡くなって馬  
を飼わなくなってから、今日  
まで大会運営に協力してくれ  
ている。そういったお互いの  
つながりや助け合いがあった  
から続けてこれたんだ」。

そう話す佐藤忠さん自身は、  
現在85歳。21歳の頃から2年  
前の第64回大会まで大会実行



昭和55年4月に開催された第30回大会。当時は、満員の観衆が見  
つめる中、下流から上流方向に向けて鞍馬が疾走。

委員長などを務め携わってき  
ました。

平成3年に発行された『東  
北鞍馬競技大会40年の軌跡』  
によると、記録が残っている  
第9回大会で、1万人の大観  
衆を集め盛大に開催されたと  
あります。

「すべてが手作業だった昔  
は、競技と競技の間の時間が  
長くなってしまふ。そうする  
と飽きてきた観客から野次が  
飛んでくるのが普通だった。  
競技の回転を速くするように  
したり、音楽を会場に流すな  
ど飽きさせないように、さま

ざまな工夫をした」と当時の  
苦勞を思い起こします。

その一方で、「父親の代か  
ら涌谷の鞍馬競技大会に携わ  
り、重量や競技開始の合図  
『旗振り』を20年以上、その  
ほかにもさまざまなことを担  
当してきた。馬主とも随分と  
仲良くなった。一年に一回鞍  
馬大会で会えるのが楽しみ」  
と笑みを浮かべます。

涌谷の鞍馬の生き字引が語  
る醍醐味「このあたりにはい  
ない体格と風格を持った鞍馬  
の勇姿」を、来年の春、改め  
て楽しんでみませんか？



自宅に歴代の大会のポスターと写真をギャ  
ラリー風に展示。





初参加の北海道北斗市の田山産業さん、ばんえい競馬の調教師と騎手の皆さん、青森県中泊町の竹内組さん、北西ファームさん。

**年**々出場頭数が減少する中、今年は、遠く北海道や青森県から初参加された馬主さんがいました。大会副審判長を務める岩瀬産業さんが、かつて北海道のばんえい競馬にかかわっていたときのつながりによって今回参加することになったと話します。

「桜が咲き、お城がある景色の中、大観衆に囲まれながら開かれる輓馬大会があるとうわさは聞いていた。今日は、こんな悪天候にもかかわらず、ばんえい競馬のような賭け事のない輓馬大会を見に多くの



本物のばんえい競馬の騎手による手綱さばきがお目見え。

人が来ている。熱いファンが多いと感じた。来年はもっと多くの馬を連れてきたい」と初参加の東北輓馬競技大会に感動していました。

また、「北海道帯広市のばんえい競馬も、馬主が高齢化し、馬を手放すことが多くなってきた。自分たちが東北の大会に出場することで、ばんえい競馬に出場する東北の馬主が増えるようにとPRを兼ねて参加している」と交流による北海道・東北の「馬文化」の発展も見据えています。

来年の東北輓馬競技大会は、北海道と青森県の新たな息吹によって、これまでにないおもしろい大会になるかもしれません。

## 東北輓馬競技大会を、馬文化を盛り上げる人々。

東北輓馬競技大会にも、高齢化の波が押し寄せ、

参加頭数の減少という開催の存亡にかかわる大きな問題をもたらしています。

そんな現状、「馬文化」を盛り上げんと、踏ん張る人々がいます。

「春とともに生きるまち」の未来は、この人々と輓馬を愛する皆さんにかかっているのかもしれない。



馬と対話しているかのような時折見せる仕草が印象的



**そ**の姿を見ないレースの方が少ないというほど、ほぼ毎レースに出場している青森県田子町から参加する新井田畜産さん。時にやさしく馬に寄り添い、時に厳しく馬を奮い立たせる様子は、東北輓馬競技大会やわくや桜まつりのポスターでおなじみです。

約25年前から参加し始めたという東北輓馬競技大会。「この会場に来ている人たちは曾じいさんの代からの仲間であり、友だち。自分は2頭馬を飼っていて、今回は1頭だけ連れてきたけれど、仲間が出るレースは助けてやらないといけない」と、高齢化する馬の引手業界をもけん引しています。

第66回が開催されたこの日も、明け方3時40分に田子町を出発し涌谷には、6時頃に到着。そういったハードなス

ケジュールの中、今回も何度も競技に出走し、疲れを感じさせない引き方を披露しました。

「馬力大会は、涌谷で一年がスタートする。この後、秋にかけて東北各地で大会が開催される。涌谷には涌谷の見どころ・魅力がある。普段は友だち同士の人馬が、レースでは、タイムを競い合うライバルとなる姿を見て楽しんでもらいたい」と長年「馬文化」に携わってきた人だけが分かる魅力を話しました。



涌谷にしかない魅力

城と桜がある風景が轡馬を魅了し、

轡馬が観衆を魅了する。







1

# 平成28年も 春らんまん



2



3



4



5

## 《写真の説明》

1. 今年も出現した桜のトンネル「よみがえった桜回廊」  
 2. 雨のいたずら「逆さ城山」 3. 妖精のように可憐に咲く「笠岳山笠峯寺のかたくり」 4・5. 子を思う親の願いが込められた「実相坊のつるしびな」 6. 宵やみに美しく神秘的に浮かぶ「特殊堤の桜と楼閣」 7. 勇壮な阿波踊りを披露した山形県大石田町「最上川芭蕉連」  
 8. 微笑む稚児が獅子をあやす「古式獅子舞演舞」



7



6



8



青年海外協力隊員として海外で活躍  
**高橋真人氏がケニアへ派遣**



3月17日(木)に、JICA(独立行政法人国際協力機構)の青年海外協力隊員として、平成28年3月から2年間ケニアへ派遣される涌谷町出身の高橋真人さんが、涌谷町役場を訪問しました。

高橋さんは、警察官として多くのアフリカ諸国出身の外国人と接する機会があり、現地での活動を希望したそうです。

今回の派遣先のケニアではその経験を生かし、犯罪や非行によって保護観察となった少年たちの復学支援や社会復帰を支援します。

涌谷町消防団に新団長  
**若山紀信氏が就任されました**



4月1日(金)に、涌谷町消防団の団長に若山紀信氏(下小塚区)が就任されました。

就任にあたり「団長に就任し責任の重さを実感しています。涌谷町消防団の団長として、涌谷町民の皆さんの生命と財産を守るため、他の団員と一丸となって職責を全うしていきたい」と決意を新たにしていました。

なお、前団長である横山武彦氏(大谷地区)は3月31日付けで退団されました。

永年団長としてのお役目と、団員としての消防活動に感謝を申し上げます。

より快適な憩いの場として  
**わくや天平の湯がリニューアル**



4月3日(日)に、改装のため休業していた「わくや天平の湯」がリニューアルオープンしました。

今回の改装では、これまで1階にあったレストランが2階へと移り、雄大な笹岳山系を望みながら食事をとれるようになりました。

合わせて、1階レストラン部分が休憩場所となり、平成10年に開業した当初のように入館料を支払わなくとも、ゆつくりとお休みいただけるようになりました。

また、肝心のお風呂も、今回の改装に合わせてヒノキ風呂を改修。真新しいヒノキの香りを楽しみながら入浴できるようになりました。

この日のリニューアルオープンを待ち望んでいたお客さまが、開店時間前から列を作る中、開店を告げるテープカットが行われました。

テープカット後、涌谷町公式観光PRキャラクター「城山の金さん」と仙台・宮城観光キャンペーン推進協議会事務局仙台・宮城観光PR担当課長「むすび丸」がお出迎え。

11時からは、産直センター黄金の郷の皆さんの協力によって、お客さまにおぼろ汁とおにぎりが無料でふるまわれました。

その後、東日本大震災以来落ち込んでいた来館者数も順調に回復。憩いの場としてご利用ください。





143年の歴史を受け継ぎ、新たな歴史が幕開け  
**篁岳白山小学校が開校**



4月3日(日)に、3月に開校した小里小学校と篁岳小学校を母体とする篁岳白山小学校の開校式が、篁岳地区町民体育館で執り行われました。式では、旧両小学校の児童のほか、保護者や地域の皆さんが参加。

はじめに、笠間教育長から開校宣言がされ、その後、大橋町長から鈴木校長に、篁岳白山小学校の校旗が手渡されました。校旗に描かれた新たな校章は、桜や白山祭に由来する2本の矢、篁岳山を模した三角、外を囲う円で子どもたちが仲良く手を取り合っ

ている様子を表現しています。児童代表高橋碧翔くんから「学校の笑顔が地域に伝わり、地域の人みんなが笑顔になれる学校にしたい。楽しいとき、うれしいとき、つらいとき、みんなで助け合い、どんなときでも友だちがいてよかったと思える学校を目指したい」と新たな小学校への抱負を話しました。

その後、地域で長年愛されてきた旧篁岳中学校の校歌を元にした篁岳白山小学校の校歌が歌われました。

メロディーはそのままに、歌詞の一部を替えて、さらに

歌い継がれていきます。なお、校歌が書かれた校歌額は、篁岳地区の有志の人が、児童の皆さんがまっすぐに育つようにと願いを込め桐の材木を使い作成。歌詞は、木村宥昭先生が揮毫したものです。式終了後には、篁岳白山豊年踊り保存会の皆さんが、校名と同じ名前を冠する踊りを披露。新旧小学校を卒業した中学生から成人までの会員が、お菓子をまいておふるまいしたり、獅子舞の奉納などによって開校式に花を添えました。



**新たな時代の一期生  
篁岳白山小学校で入学式**

4月8日(金)に、開校したばかりの篁岳白山小学校を含めて涌谷町内の小中学校で一斉に入学式が執り行われました。

新入学児童13名は、大きなランドセルを背負い、咲き始めたばかりの桜が見つめる通学路を保護者とともに登校してきました。

式では、小学校生活への期待に胸を膨らませながら元気に入学。背筋をピンと張り、児童点呼で元気に返事をしていました。

式辞で、鈴木校長から「あいさつする児童」「あんぜんを守る児童」「ありがとうを言える児童」と3つの「あ」にまつわる小学生としての約束事が話されました。

その後、先輩の代表児童から美味しい学校給食や夏のプール、休み時間の過し方など、小学校生活の心得が伝えられました。

そして、先輩児童の皆さんからは、開校して間もないことを感じさせない息の合った歓迎の歌のほか、篁岳白山小学校の校歌が披露され、初めの入学式を祝いました。



## 浦中生が警察署長に!?

### 春の交通安全運動が実施されました

4月6日(水)から10日間にわたり、春の交通安全町民総ぐるみ運動が実施されました。子どもと高齢者の交通事故防止などの啓発活動を目的としたこの活動。出発式には、浦谷中学校の生徒会の皆さんも参加。新生浦谷中学校の女子生徒の制服や、体操着に施された反射材に対して遠田警察署長から感謝状が贈られました。

また、JA共済全国小・中学生交通安全ポスターコンクールで警察庁長官賞を受賞した和田都さんが一日警察署長として交通安全を呼びかけました。



## 桜まつりを前にボランティア活動

### 浦中生とボランティアの会が清掃

今年の開花宣言があった4月5日(火)に、浦谷中学校の「浦中アルカス咲楽隊」約200人と浦谷町ボランティアの会の有志約80人が早朝から集まり、城山公園周辺の清掃をしました。

この取り組みは、毎年恒例となつていますが、年々参加者が増加。今年は、ボーイスカウトやライオンズクラブの皆さんも参加しました。

桜まつりを前に、訪れる人々が気持ちよく楽しんでいってもらえるようにという思いが込められています。春とともに生きる浦谷の象徴的な活動です。



しろやま さん  
城山の金さん徒然日記

### ベガッ太殿と天平の湯でPR活動

4月4日(月)に、わくや天平の湯リニューアルオープンへの激励に、浦谷町黄金大使であり、ベガル太仙台マスコットでもある「ベガッ太」殿をはじめ、平瀬アンバサダー、ベガルタレディース市瀬選手、万屋選手が駆けつけてくださった。

13時30分から小劇場においてわしの「はと麦茶」のプレゼントやサインを書いてあげたり、記念撮影をしたりと、この日訪れていた皆さんと触れ合っていた。浦谷とベガル太仙台の縁について、知っていたただけではなからうか。



写真) 来場者と触れ合うベガルタレディースの戦士

## 子育て支援サークル・おひさまスマイル活動報告

### 音で遊ぶ!ともとのガラクタ音楽会

3月27日(日)に、「ともとも」こと打楽器奏者の山口ともさんによるゴミ?ガラクタ?を使った音楽会を開催しました。

はじめに、ともともと一緒に楽器作り。ペットボトルに木の実やビーズを入れたペッカーを制作しました。開演は一斗缶を頭に被って足に履いての登場。聞いたこともない宇宙の音、流木や古木の木琴演奏、日用品楽器で南の島の楽園の音、よくある廃品を集めたジャンクドラムの演奏など、たくさんのお奇想天外な音で満たされた音楽会でした。町内外約140名の皆さんとさまざまな音を楽しみました。



写真) ペッカーを使ってカシャカシャ、ストップ!



**国民年金のお知らせ**  
**国民年金保険料額のご案内**  
**平成28年度国民年金保険料額**  
**(月額)**

- 定額16260円
- 定額十付加保険料(400円)16660円

4月に1年分の保険料納付書が入った「国民年金保険料納付案内書」が送付されています。一部免除に該当している人は、4月と7月に納付書が送付されます。

なお、口座振替の利用者、全額免除・若年者納付猶予の該当者、今年度も同じ学校に在学予定の学生納付特例該当者には、納付書が送付されません。

学生納付特例申請は、年度毎の申請が必要です。住所のある役場で申請する場合は、在学証明書の原本もしくは学生証の写し、年金手帳、認め印、家族が代理申請するとき、代理で手続きする人の身分証明書(運転免許証や健康保険証)が必要となります。

一般の人の免除申請は、平成28年度分は7月1日以降の受付となりますので、ご了承ください。

**【注意点】**  
● 免除申請が遅れ、未納のままになっていると、万が一

際に障害年金などを受け取れない場合があります。

● 学生であった期間は、学生納付特例に限られますので、学生であった証明が必要になります。

● 免除は、前年所得や失業などの状況に基づき審査を行いますので、承認されない場合があります。

● 不明な点がありましたら、左記にお問い合わせください。

**▼問い合わせ先** 古川年金事務所国民年金課 ☎23-1203、町民生活課町民生活班 ☎44-2898

**環境マメ知識**  
**ごみ集積所の利用ルール**

ごみ集積所は、決まった曜日に出して、確実に収集してもらいための場所です。皆さんで共有する場所ですので最低限のルールを守りましょう。

**【利用ルール】**

- ① 燃やせるごみは指定の袋に入れて中身が出ないように口を縛りましょう。
- ② 燃やせないごみは大きさによって不燃性粗大ごみに分類される場合があります。
- ③ ペットポトルはカゴからあふれないよう、なるべくくつぷして出しましょう。

④ 集積所はどこに出してもいいわけではありません。決まった場所へ決まった曜日に出しましょう。

● ごみ集積所だからごみがあつて当然というのではなく、ルールを守らず、集積所につまでもごみが残っていれば、衛生的にも景観的にもよくありません。

さらに、「ごみはいつでも出している」と勘違いする人もいるかもしれません。朝7時までにごみを出し、収集日以外は集積所にごみが無い状態にしておくことが大切です。

ルールを守り、集積所を清潔に保ちましょう。ごみの出し方で分らないことがありません。



**▼問い合わせ先** 町民生活課  
町民生活班 ☎43-2113

**大事な飼い犬に**  
**狂犬病予防注射を**

今年度も狂犬病予防注射を行います。登録済みの飼い主には、通知書を配付します。内容を確認の上、必要事項を記入し会場にご持参ください。動物病院で接種をされる人は、配付された注射済票交付申請書と、動物病院で発行される注射済証明書を持って、5月16日(月)以降、町民生活課にお越しください。

なお、上地区コミュニティセンター会場は、交通安全に配慮し廃止とさせていただきます。上郡1区の飼い主の皆さんにはお手数をおかけしますが、上地区生活センターなど別会場での接種にご協力をお願いします。

手数料	
注射済票交付手数料	630円
狂犬病予防注射料	2,470円
<b>計</b>	<b>3,100円</b>

※新規登録の場合、3,000円加算

**▶問い合わせ先**  
町民生活課町民生活班  
☎43-2113

5月9日 (月)	9:30~ 9:50	黄金公会堂
	10:00~10:20	日向公会堂
	10:30~10:50	中地区コミュニティセンター
	11:00~11:20	花勝山石坂集落センター
	13:30~13:50	長柄町生活センター
5月10日 (火)	14:00~14:30	のびのび会館
	9:30~ 9:50	小里集落センター
	10:00~10:20	長根会館
	10:30~10:50	生栄巻生活センター
	11:00~11:40	農村環境改善センター
5月11日 (水)	13:30~13:50	脇会館
	14:00~14:20	成沢自治会館
	9:30~11:00	商工会館前
	11:20~11:40	三十軒・九軒多目的集会所
5月12日 (木)	13:30~13:50	追戸横穴古墳公園
	14:00~14:20	瀧の沢生活センター
	9:30~ 9:50	猪岡会館
	10:00~10:20	吉住運動広場
	10:30~10:50	大谷地集落センター
	11:00~11:20	短台集落センター
5月13日 (金)	13:30~14:10	上地区生活センター
	14:20~14:40	下郡集会所
	9:30~10:00	上谷地共同文化センター
	10:10~10:40	上町公会堂
	11:00~11:40	勤労福祉センター